

第 51 回中国四国大学保健管理研究集会の開催

— ハイブリッド開催での試み —

山口大学教育・学生支援機構保健管理センター
奥屋 茂

要旨

この度、第 51 回中国四国大学保健管理研究集会を、同研究集会当番校として、本学で 8 年振りに開催した。昨年の第 50 回研究集会に続きコロナ禍での開催となり、医学部附属病院オーデトリウムを配信会場としてのハイブリッド開催という形式で行った。多くの方々の参加・協力を得て、無事開催することができたので報告する。

キーワード

保健管理, 新型コロナウイルス, ハイブリッド開催

1 はじめに

2021年8月26日(木)・27日(金)の両日、山口大学医学部附属病院オーデトリウムを会場に、山口大学保健管理センターが、学生支援課・総合技術部・医学部総務課の協力を得て、現地+遠隔配信のハイブリッド形式で、第51回中国四国大学保健管理研究集会を開催した。本研究集会を当学が前回担当したのは2013年の第43回であり、8年振りの開催となった。全国大学保健管理協会中国四国地方部会に所属する、国公立大学38校の保健管理施設に所属するスタッフが参加し、日常業務に関連する研究発表、知見の習得、情報交換を行う貴重な機会であり、各地から遠隔システムで多くの方々に参加いただき、無事開催することができた。

本稿では、当番校として開催した本研究集会についての報告を行う。

岡正朗学長に「癌免疫への飽くなき思い」のタイトルで、学長のライフワークである“癌免疫”に関して、自ら取り組まれた研究をはじめ、非特異的免疫療法、サイトカイン療法、活性化リンパ球細胞療法、癌ワクチン、免疫チェックポイント阻害薬等々、癌免疫療法のこれまでの流れから最新の免疫療法の知見について、大変わかりやすく丁寧にご講演いただいた。



2 特別講演

3 教育講演

3.1 教育講演 1

宇部興産株式会社，健康管理センター統括産業医の塩田直樹先生に「発達障害児・者支援から垣間見える人生 100 年時代の産業保健の課題と展望～新たなリスクコミュニケーションの在り方とは？～」と題して，発達障害者へのライフステージを通じた適切な支援のあり方，また，自分の人生の主体となって生きていくために自ら学び考える判断力を養うためのリスクコミュニケーションのあり方などについて，先生ご自身がなさっている実践的な支援もまじえて，わかりやすくご講演いただいた。



3.2 教育講演 2

山口大学大学院医学研究科呼吸器・感染症内科教授の松永和人先生に「感染症のあり方について考える：COVID-19アップデート」の演題で，世界的な大流行を起こしている新型コロナウイルスの特徴，世界中でのデータ集積や対策でわかってきた新型コロナウイルス感染症の予防・診断・治療に関する知見，ワクチンや中和抗体カクテル療法の有効性，さらに保健管理に求められる対策のあり方などについて，ご講演いただいた。学業・就労と感染対策の両立を目指す健康教育は不可欠で，新型コロナウイルス感染症を正しく恐れ，基本を守り，継続可能な体制を構築することが

重要であると力説されていた。



4 メンタルヘルス講演会

山口大学大学院医学研究科高次脳機能病態学准教授の松原敏郎先生に「コロナ禍でのストレス・フラストレーションへの対応」と題して，感染収束の見通しが立たない中，経済情勢も不透明であり，従来得ることができた様々なつながりや経験を得られない中で，社会参加の準備をしなければならない学生が感じているストレスを理解するとともに，ストレスに対するフラストレーション，さらにフラストレーションへの具体的な援助の仕方等について，支援する側のストレス対処とともに，大変丁寧にご講演いただいた。



5 一般研究発表

一般研究発表では，“メンタルヘルス”と“健康管理”と大きく2つのテーマに分け，本地方部会所属の各大学から，日常の保健管

理業務の中での気付き、振り返り、新たな取り組み、問題提議等々のプレゼンテーションを行っていただいた。合計13題の演題に関して、座長、プレゼンター、聴講者いずれもが各地区から遠隔で参加し、現地で集まったの研究集会と同様にリアルタイムで質疑応答も行うことができ、大変盛り上がった。



6 意見交換会

研究集会開催前に、各大学にコロナ禍の大学の現状についてのアンケートを実施した。学生・教職員定期健康診断の具体的な実施方法、日常の健康・メンタル相談の実施状況、留学生への対応、オープンキャンパスや大学祭の実施状況、新型コロナウイルスワクチンの職域接種への対応等の項目について、その集計結果を報告するとともに、その結果をもとに情報交換を行った。当中国四国地区の各大学での困りごと、先進的な取り組み、対応方法等々、情報交換・共有を行うことができ、予定され



た80分がすぐに過ぎてしまうような有意義な時間であった。

7 おわりに

本大会の運営に関しては、全国大学保健管理協会中国四国地方部会の先生方の多大なるご協力を得て、無事運営することができた。医学部附属病院オーデトリウムに参集しての対面形式で開催することは叶わなかったが、昨年からの急速に普及してきた遠隔システムを用いて、コロナ禍で業務繁忙の中での開催にもかかわらず、開催期間を通して概ね90名の参加者があり、盛会のうちに終えることができた。



謝辞

今回の研究集会の開催に関しては、総合技術部の渡邊政典部長、同情報技術課の河元伸幸課長ならびに山下哲生様、同製作技術課田内康様、医学部総務課総務係の堀康代主任に、準備の段階から、ホームページの作成・運営をはじめ、遠隔システム実施のための技術的なサポートを行っていただいた。おかげさまで、本研究集会においては初の取り組みであるハイブリッド開催を、プログラムの予定通りに滞りなく終えることができた。

改めて深謝申し上げます。

(保健管理センター 所長・教授)